

期 中 の 評 価 個 表

事業名	大規模林道事業	事業計画期間	昭和52年度～平成19年度
事業実施地区名 (都道府県名)	中村・大正区間 (高知県)	事業実施主体	緑資源公団
事業の概要・目的	豊富な森林資源に恵まれた地域において、基幹的な林道を整備し、林業を中心とした地域振興を図る。 ・延長17.2km 幅員7.0m		
① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	費用対効果分析を試行した結果は、以下のとおりである。		
	総 便 益 (B) 2,367百万円 総 費 用 (C) 2,075百万円 投資効率 1.14		
② 森林・林業情勢、農山漁村の状況その他の社会経済情勢の変化	関係市町（中村市、大正町）は豊富な森林資源を有しており、事業量（造林、間伐）は山村の平均よりも多い。 受益地の人工林率は79%であり、関係市町の平均よりも高い。また、事業量（間伐）は今後、増加する計画である。 大正町、中村市上古尾地区等の集落から中村市への生活道路として活用されることが見込まれる。 高知県の振興計画である「清流四万十川総合プラン」の対象地であり、清流の保全に配慮した工法が求められている。		
③ 事業の進捗状況	完成12.7km 進捗率74%		
④ 関連事業の整備状況	公道利用区間の整備の進捗率は62%。 未着工区間の整備により大正町等の高知県北西部の森林地帯と中村市の移動時間が短縮され、既存の国道を補完する交通ネットワークの一部として機能すると期待される。		
⑤ 地元（受益者、地方公共団体等）の意向	地域林業の活性化に重要な役割を果たすとともに、生活道路、関係市町間の連絡道として活用できるとして、高知県、関係市町及び受益者は区間の早期完成を望んでいる。		
⑥ 事業コスト縮減等の可能性	以下のとおりコスト縮減に努めており、今後とも引き続きコスト縮減等が可能である。 ①施工能力の高いタイヤローラーや32トンブルドーザーの積算への反映、長い規格の側溝の採用、及び構造物の二次製品の採用によるコスト縮減や工期の短縮 ②舗装や構造物の基礎材にアスファルト再生合材等を使用することによるコスト縮減と建設副産物の有効利用		
⑦ 代替案の実現可能性	該当なし。		
第三者委員会の意見	林業・林産業の活動の見通し、地域振興への貢献度等を総合的に検討した結果、事業を継続することが適当と考える。		
評価結果及び実施方針	・必要性： 地域は豊富な森林資源を有していること、中村市と大正町の連絡道となること等から事業の必要性は認められる。 ・効率性： コスト縮減に努めているほか、費用対効果分析を試行した結果、費用以上の効果が見込まれ、事業の効率性は認められる。 ・有効性： 受益地の人工林率が高く、事業量が増加する計画であること、既存の交通ネットワークを補完すること等から有効性は認められる。 事業の実施方針：継続		

期 中 の 評 価 個 表

事業名	大規模林道事業	事業計画期間	昭和9年度～平成17年度
事業実施地区名 (都道府県名)	梶原・東津野区間 (高知県)	事業実施主体	緑資源公団
事業の概要・目的	豊富な森林資源に恵まれた地域において、基幹的な林道を整備し、林業を中心とした地域振興を図る。 ・延長4.9km 幅員7.0m		
① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	費用対効果分析を試行した結果は、以下のとおりである。		
	総便益(B) 1,337百万円 総費用(C) 1,196百万円 投資効率 1.12		
② 森林・林業情勢、農山漁村の状況その他の社会経済情勢の変化	梶原町は豊富な森林資源を有しており、事業量（造林、間伐）は山村の平均よりも多い。 受益地の人工林率は60%である。また、事業量（造林）は今後、増加する計画である。 沿線等の集落と梶原町中心部とのアクセスが改善され、生活道路として活用されることが期待される。 高知県の振興計画である「清流四万十川総合プラン」の対象地であり、清流の保全に配慮した工法が求められている。		
③ 事業の進捗状況	2.2km完成 進捗率45%		
④ 関連事業の整備状況	公道利用区間の整備の進捗率は23%である。 梶原町中心部と中村市の移動時間を短縮するルートとなり、既存の国道を補完する交通ネットワークの一部として機能すると期待される。		
⑤ 地元（受益者、地方公共団体等）の意向	地域林業の活性化に重要な役割を果たすとともに、沿線等の集落と町中心部を結ぶ生活道路として活用できるとして、高知県、梶原町及び受益者は早期完成を要望している。		
⑥ 事業コスト縮減等の可能性	以下のとおりコスト縮減に努めており、今後とも引き続きコスト縮減等が可能である。 ①施工能力の高いタイヤローラーや32トンブルドーザーの積算への反映、長い規格の側溝の採用、及び構造物の二次製品の採用によるコスト縮減や工期の短縮 ②舗装や構造物の基礎材にアスファルト再生合材等を使用することによるコスト縮減と建設副産物の有効利用 ③鋼橋桁に塗装が不要な耐候性鋼の採用によるコスト縮減と省メンテナンス		
⑦ 代替案の実現可能性	該当なし。		
第三者委員会の意見	林業・林産業の活動の見通し、地域振興への貢献度等を総合的に検討した結果、事業を継続することが適当と考える。		
評価結果及び実施方針	・必要性： 地域は豊富な森林資源を有していること、沿線の集落と梶原町の中心部を結ぶ連絡道となること等から事業の必要性は認められる。 ・効率性： コスト縮減に努めているほか、費用対効果分析を試行した結果、費用以上の効果が見込まれ、事業の効率性は認められる。 ・有効性： 受益地の人工林率が高く、事業量が増加する計画であること、既存の交通ネットワークを補完すること等から有効性は認められる。 事業の実施方針：継続		